

(様式3)

水源環境保全・再生かながわ県民会議 事業モニター報告書

事業名 水源の森林づくり事業の推進

報告責任者 五十嵐 淳一

実施年月日 平成24年12月6日

実施場所 相模原市中野地区

評価メンバー 足立 功・井伊 秀博・五十嵐 淳一・井上 貞子・金森 巖・
木平 勇吉・坂井 マスミ

説明者 自然環境保全センター 水源の森林推進課 西口課長
県央地域県政総合センター 水源の森林推進課 大矢課長

事業の概要

・ねらい

良質で安定的な水を確保するため、水源の森林エリア内で荒廃の進む私有林の公的
管理・支援を推進し、適切な管理、整備を進め、水源かん養など森林の持つ公益的機能の
高い「豊かで活力ある森林」を目指すことをねらいとしている。

・内容

水源協定林であり、目標林型は針広混交林および活力ある広葉樹林である。
育林方針としては、スギ・ヒノキ林は適正な密度管理を行い針広混交林へ誘導する。広
葉樹林は枯損木、傾斜木を中心とした受光伐を行い下層植生の導入を促す。また必要箇
所に土砂の流出や浸食を抑えるための丸太柵工・丸太筋工および森林整備・管理に必要な
径路を設置する。

・実績

平成22年度においては、スギ・ヒノキ林で27～36%の間伐、広葉樹林で16～26%の
受光伐を実施するとともに、下層植生が乏しく土壌の浸食の恐れがある箇所に間伐材を
用いた丸太筋工90m および径路570mを施工した。

評価結果	評価点
共通項目	
ねらいは明確か 針広混交林を目指した間伐、土砂の流出防止は評価できるが、今後自然に更新してゆく森にするための方策が課題となっている。	5点：5名 4点：1名 2点：1名
実施方法は適切か 照度、下層植生の状況から適切な施行であるという意見がある一方、もっと積極的に林内環境の改良を進める必要性を感じるという意見もある。	5点：1名 4点：2名 3点：4名
効果は上がったか 鹿による食害もなく、下層植生の状態からみて効果はあがっているようだ。	5点：1名 4点：2名 3点：3名 2点：1名
税金は有効に使われたか 概ね税金の有効性を評価する意見であるが、地権者の理解や20年後の契約が切れた後も水源林として維持できるかが前提となる。	4点：1名 3点：5名 2点：1名
個別項目 水源涵養機能の高い森林とは如何なるものなのか？ 天然林に帰する為には、地権者の深い理解と地域住民の協力が必要となるであろう。	3点：1名 2点：5名 1点：1名
総合評価 地権者の意向を重視することは大切なことであるが、「水源の森林」作りと木材生産のための「林業や里山の整備」とは似て非なる施行である。 人工林から天然林への移行は未だ確立されておらず、試行錯誤の段階にある。現状で良い施行に見えても、人手を介入しなくても良い森になるかどうかは不透明だ。この施業における本当の意味での評価は、次世代に託すしかない。 我々に出来るのは、今最善と思われる施行をし、地権者・地域住民・行政が一体となって真剣に考え事業に取り組む事である。	5点：1名 4点：1名 3点：2名 2点：2名

モニター実施状況



1 共通項目

ねらいは明確か

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	目標林型を針広混交林としながらも、間伐で残した木を材として使う可能性を残しているとのことなので、やや不明確に感じられた。	4
B	目標林型は明確です	5
C	目標林型として、針広混交林を目指した間伐及び土砂の流出・侵食を抑えるための丸太筋工のねらいは明確である。	5
D	ねらいは明確である。	5
E	短期的な狙いはわかったが、自然に更新してゆく（人の手を借りない）ためには、若い木を残して、大きな木を伐る必要があると感じた。しかし、その先は？長期的には何も決ってはいないようで、結局、どのような状態を狙っているのか見えなかった。	2
F	公益的機能の高い森林づくり	5
G	広葉樹中心の住宅地が迫る里山の手入れでは、山主の意向で大きな木を残しているが、大きな木を切って若い木を育てるべきか等が議論され、現場の試行錯誤の跡が見られる。その積み重ねは必ずいつか役に立つ。	5

実施方法は適切か

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	スギ・ヒノキ林は27～35%の間伐、広葉樹林は16～26%の受光伐を行い、必要箇所に丸太筋工および径路を設置しているが、現況から見てほぼ適切と考える。	4
B	針葉樹林の間伐は もう少し厚くしても良かったと思います	3
C	間伐率は低いですが、鹿の被害がなく下草植生は良い状態であり現状では適切な施行である。	3
D	適切である。	4
E	広葉樹林、針葉樹林ともに下層植生を意識した密度管理がされている。	3
F	もっと積極的に林内環境の改良を進める必要がある。	3
G	実施は林業会社。悪い木と分かれ過ぎた枝は伐って、土止めに使っている。大きな広葉樹を残してあるが、明るさも確保されている。	5

効果は上がったか

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	スギ・ヒノキ林および広葉樹林とも下層植生が育ってきており、シカによる食害もみられず、効果はあがっているようである。	4
B	針葉樹林は もう少し明るくても良いと思います。5年後の施業に期待したい。	2
C	施行前との比較ができないため、効果が上がったかどうか良く分からないが、健全な水源林であると思う。	3
D	効果は上がっている。	5
E	下草と相談しながらさらなる間伐が必要である。今後は鹿の侵入を想定した対策が必要である。	3
F	効果が上がらないかもしれない。	3
G	道路も人家も近い立地で、作業道は歩きやすく近隣の人が愛着をもって通ってきている形跡もあり、地域にとけ込んでいる。地域で更に周知されることを望む。	4

税金は有効に使われたか

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	この事業への税金の投入は有効であったと考えるが、水源環境保全税によって整備が行われたことを、もっと明確に示す工夫をすべきではないか。	3
B	手は入ったので その効果を期待したいと思います。	3
C	14名の山主では、到底できない作業であり有効に税金は使われていると思う。	3
D	税金は有効に使われている。	4
E	今後も税を使うにあたって、地権者の理解（太い木も伐る）が十分得られているかどうか懸念される。また、契約が20年後に切れた際に宅地にされないか懸念される。	3
F	税金を使うより、調査だけやり、時間を待つ方がよい。	2
G	道路や人家が近く搬出しない前提であれば、女性や子ども親しみやすい便利な立地を生かすことを優先し、まずNPOに施業を打診し、共同して広報・交流・情報交換の場として活用する道も模索すべきではないか。	3

2 個別項目

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	ササの侵入 事業地手前にササが密生しており、林内が明るくなったことにより今後侵入してくることが予想され、対策を考慮しておく必要がある。	2
B	施業方針 施業方針は 水源涵養機能を維持させるために決められるべき内容なので、そこに地主さんの意向が絡んで方向がずれるということは避けるべきでしっかり施業の意味を理解してもらうように、丁寧な説明が必要だろうと思います。	2
C	看板 住宅地が間近に迫っている里山であり、近隣住民に理解が得られるよう、もっと看板等の告知が必要であると思う。	2
D	水源環境の保全と再生の看板（水源の森林づくり） 水源協定林の看板があった方が、いいのではないのでしょうか。	2
E	天然林の改良 木材生産ではなく、水源かん養を目的とした天然林を良くしてゆくノウハウは確立されておらず、これから試行錯誤がされる。人間にとって気持ちのよい天然林が必ずしも水源かん養機能が高いとは限らない。この対象地も同様の課題があると感じた。	2
F	林床植生の再生 スギ・ヒノキ人工林では、間伐だけでは植生再生の期待が薄い。	3
G	試行錯誤の主体は、山主である 見学後の意見交換では、今後の広葉樹林の手入れのあり方、お金のかけ方について、様々な意見が出され、参加した全員に得るものがあつたと感じる。しかし本来、この議論の中心には山主がいるべきなのではないか。 事前に山主に現地訪問の日程を知らせ、希望する山主は、意見や議論を聞いて今後の参考にできるようにするべきではないか。また委員も、直接山主から経緯や意図を聞いた上でなければ、長期的な評価をできないかもしれないと思う。先々のことまで考えるのであれば、山主を蚊帳の外に置いてする議論には、意味がない。	1

3 総括評価

委員	内容	評価点
A	税金投入の表示・ササの侵入対策などに若干の問題があるが、整備により効果があがっていると認められる。	4
B	広葉樹の施業は 林内照度の確保と下層植生の育成、土壌流出の防止という目的で施業されているとのことなので、それを継続して行けば目標林型に近づいていくだろうと思われます。 一方針葉樹林では、もう少し間伐率を上げてよかったですのではないかと思います。約3割の間伐率ということで地主さんの意向も配慮しているとのことですが、やはりここは目標林型に誘うために、しっかり林内照度は確保できる施業をすべきでしょう。あるべき施業方針を強力に進めてほしいですね。 地域の人たちが、この中野水源林のことをほとんど知らないという状況があります。地域の学校で子供たちに伝えることが出来れば、かなり宣伝効果があると思います。	3
C	スギ、ヒノキ林については、山主の意向を重視するあまり、間伐率が普通程度であり、水源林の整備というより林業用の整備に留まっている感がある。広葉樹林では、85年生の巨木林もあり山の若返りを考えると間伐の検討が必要になると思う。 また住宅地のすぐ近くの裏山でありながら、はたして県民税による事業を、どれだけの地域住民が知っているのか疑問に思った。広報活動には看板が欠かせないと思うが、それ以外でもボランティアを募り、丸太筋工等の素人でもできる作業に大人も子供も参加してもらうのが良いと思う。地域住民に、この水源を守っているのは私達なんだという意識が芽生えれば、これ以上強い事業の後押しはない。	2
D	スギ・ヒノキは密度管理が行われ、古損木や傾斜木は受光伐が行われ、下層植物の種類も豊富である。広葉樹の落葉で肥沃な土壌を作り活力ある下層植物が育っているのので、シカの被害は大丈夫でしょうか。 水源林としての整備も良い上に、現場から見下ろされる景観も良かった。	5
E	20年後、さらにその先を見据えた森づくりのストーリーが必要と感じた。水源かん養機能を検証できずに単に除伐を繰り返すのは税の無駄使いとなろう。太い木を伐ればいずれ常緑樹が生い茂り森は荒れる。 例えば、太い木を伐らずに寿命を待ち、常緑樹は伐る。そのようなストーリーを地権者と共有することが大切と思う。	3
F	木材生産のための林業としての施業の考え方をすてる必要がある。 経費が有効であることが説明しにくい。 広域な森林の生態系について目標をもつ。 地図上にデータを示してほしい。	2

委員	内容	評価点
G	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発教育の場としての価値を創造する。 相模原は人口も多く、橋本は今後更に交通の便がよくなる。人家の間近にある美しい広葉樹中心の森林は、今後広く県民に森林を身近に感じ、関心を高めてもらうのに適している。 ・山主の意向 山主さんの「大きな木はもったいないから残して欲しい」というご意向には合理性がある。大きな木は地域文化継承の象徴であり、都市部からボランティアが来てくださるのも、大きな木の森が、スピードに追われる現代に生きる都市住民の精神の拠り所となるからである。 ・便利な立地の森林を、民間活力を生み出す場として生かす視点を。 県内のNPOは、活動の場が限定されていて、多様な森林を経験する機会が少ない。このような場所をNPOにも開放すれば、NPOの活動視野を広げられる上、多様な技術の習得と、能力向上の機会を与えるだけでなく、端材を活用した広報など、啓発効果も期待できる。 ・山主の意識向上につながる工夫を。 多くの植樹ボランティアを受け入れているある山主は、「若い人が大勢で、私の山を見に来てくれることが一番嬉しい。100人が苗木を1本ずつ背負って山の上まで登って来てくれるのだから、それを自分で運ぶことを考えたら、それだけでも大助かり。正直言って素人が植えた木は殆ど全部根が付かないけど、そんなのは次の日もう一回行ってやり直せばいいことだから。」と言っている。山主には、人家が間近で、地域からも愛されている森はどうあるべきか。広く体験の場を提供することは、県民山主、双方の利益という視点を共有する必要がある。 ・広葉樹林の手入れのあり方に、多様性を。 どこも均一にお金をかければよくなるとは限らない。不便な所はお金がかからないように、自然に返す、便利な所は価値を生むようにするなど、時代に合った試行と成果を期待する。 ・「森を見て人を見ず」になっていないかを常に疑ってみる。 里山は手塩にかけて作られた山である。人がいてこそ価値が生まれる。 	3

4 実施実務のチェック（資料は理解できたか・現地の状況は理解できたか・説明は理解できたか）

委員	内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
D	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
E	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
F	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
G	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (改善されている。) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適) <p>※意見交換の時間に余裕をもたせた分だけ、議論も活発になった。各委員が考える、多様なアイディアに触れ、また現場職員の試行錯誤の率直な話も聞くことができ、有意義と感じた。</p>

(様式3)

水源環境保全・再生かながわ県民会議 事業モニター報告書

事業名 地域水源林整備の支援

報告責任者 五十嵐 淳一

実施年月日 平成24年12月6日

実施場所 相模原市小原地区

評価メンバー 足立 功・井伊 秀博・五十嵐 淳一・井上 貞子・金森 厳・
木平 勇吉・坂井 マスミ

説明者 水源環境保全課 滝沢副課長・稲葉主査
相模原市相模湖経済観光課 中村課長・榎本主査

事業の概要

・ねらい

地域における水源保全を図るため、市町村が主体的に取り組む水源林の確保・整備や、地域水源林エリアの林齢36年生以上の私有林人工林の間伐を推進することにより、県内水源保全地域全域で水源かん養など公益的機能の高い森林づくりを目指す。

・内容

良好な森林土壌を保全する森林を育成するため、下層植生の確保・林内環境の改良等を目的として間伐、枝打を行った。

また、間伐作業の安全確保上必要な、つる切り、除伐と径路新設工を行った。

・実績

面積3.65ha（内当該地面積2.97ha）

目標林型：混交林

施工金額：3,612,000円

整備の工種（当該地のみ）

①保育工：2.97ha、間伐：2.97ha、枝打：0.45ha、除伐：2.97ha、つる切り0.45ha

②径路新設工 経路新設：460m

評価結果	評価点
共通項目	
ねらいは明確か 針広混交林、土砂流出の防止、下層植生の繁茂を目指している。	5点：2名 4点：3名 3点：2名
実施方法は適切か 水源涵養保安林の指定区域内の規制により間伐が不十分であるが、可能な施行は実施している。	4点：3名 3点：3名 2点：1名
効果は上がったか 照度、下層植生からみて現状での効果はあがっていないが、今後の展開に期待したい。	4点：1名 3点：1名 2点：4名 評価無し 1名
税金は有効に使われたか 賛否両論わかれるところであり、今後の施行・保安林規制の緩和申請に期待したい。	4点：2名 3点：3名 2点：2名
個別項目 水源涵養保安林の間伐率 20%以下の規制の中でも、一律に間伐するのではなく工夫をこらしてもらいたい。	4点：1名 3点：1名 2点：4名 評価無し 1名
総合評価 林を守る保安林規制と水源林の保全再生事業との間に本来分け隔てがあるはずがない。中途半端な施行では税金の無駄遣いになりかねない規制緩和の認可が望まれる。	4点：2名 3点：2名 2点：3名

モニター実施状況



平成24年度第2回事業モニター評価一覧（地域水源林整備の支援）**参考資料**

1 共通項目
ねらいは明確か

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	整備により針広混交林に導くことを目標としているが、水源涵養保安林指定による間伐率の規制があり、どの程度まで実現できるかが疑問である。	3
B	良好な森林土壌を保全する混交林に誘導するという狙いは良いと思います。	4
C	林内の光環境の改善、下層植生の繁茂、土砂流出防止、涵養機能を目指しているねらいは明確である。	5
D	市が主体的に取り組んでいる。ねらいは明確である。	4
E	下層植生を意識した間伐を行う。現状できる最大の間伐を行っており、およそ5年おきに2、3回繰り返してゆく計画である。	3
F	針広混交林・広葉樹林への誘導。	5
G	地元旧家の手入れを怠った人工林が手遅れの状態で市に寄付され、涵養保安林として平成24年の初め、作業に必要な枝打ちと限度20%の間伐を行った。まだ暗いが、着手し、切った木で土止めしたことは意味がある。	4

実施方法は適切か

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	規制により間伐が不十分であることに加え、目標林型を考えれば6mまでの枝打ちが必要だったか疑問である。	2
B	上記の目的を達成するために 間伐、枝打ちを実施したのは適切だろうと思います。	4
C	水源涵養保安林の指定区域内で可能な施行を実施している。	3
D	適切である。	4
E	水源かん養機能を意識して、例えば急斜面などはあえて劣性木も残しても良いと感じた。	3
F	今後のモニタリングにより、効果ある方法を見つける試行であるので、判断がむづかしい。	3
G	近いうちに更に2~3度手を入れて本数を減らす予定であると言う割には、作業道が急でジグザグであったが、切った木で土止めするなど、過去の大雪害の教訓などの、場所柄に応じた配慮が感じられる。	4

平成24年度第2回事業モニター評価一覧（地域水源林整備の支援）**参考資料**

効果は上がったか

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	林内はまだ暗くて下層植生も育っておらず、表土は小石混じりで保水力は乏しいと見受けられ、現状では効果がほとんどあがっていない。	2
B	現状を見ると下層植生が繁茂しているとは言い難く、今のままでは混交林に誘導されている兆候は見られない。	2
C	昨年度の冬に施行したばかりで、下層植生の繁茂はそう多く見られなかった。林内もまだまだ暗く感じた。	2
D	手入れの跡はあるが、もう少し光が入る方法を考え、手入れの必要がある。一度には不可能な条件があるので、経過や気長い整備が必要である。	4
E	下層植物は乏しく効果があったとは言えない。群状間伐を併用してはどうかと思う。	2
F	時間が必要である。継続する必要がある。	3
G	まだまだ暗く下草も生えていないが、これは着手されたばかりなのであって、今後の展開を見ないと今のところでは判定できない。	—

税金は有効に使われたか

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	上記のような現状であり、有効に使われたとは言い難い。	2
B	森林に手を入れたという意味で 効果に期待したいところです。	3
C	水源涵養保安林しばりの中ではできる限りの施行を実施し税金は有効に使われていると思う。	3
D	有効に使われている	4
E	森が健全になるまでに15年かかるとすれば、その間に雪害・風害が必ず起こる。残された木を見ると弱々しいので、皆伐でもよかったのではないか？	3
F	施業にかかる経費を少なくする必要がある。	2
G	今後5年ごとに2~3回手を入れて、本数を調整するために、今回と同等の額を要するのであろうが、現行の規制の範囲で斜面を守っていく以上は止むを得ない。	4

平成24年度第2回事業モニター評価一覧（地域水源林整備の支援）参考資料

2 個別項目

委員	評価・疑問提起・改善示唆	評価点
A	—	—
B	<p>間伐率の規制について 保安林で有るために 間伐率20%以下の規制を受けたということで 規制の主旨と水源保全税の主旨からして矛盾があると思います。（これは県で見直しをしていると説明が有りました） 施業方針は、まず水源環境を保全する目標林型に誘導する為に決定されるべきであることを基本にして考えて欲しいと思います。</p>	2
C	<p>午前中モニターした中野地区と同様に住宅地が間近に迫っている里山であり、近隣住民に理解が得られるよう、もっと看板等の告知が必要であると思う。</p>	2
D	<p>整備の効果 急斜面の土地、間伐の形跡があるが、薄暗く広葉樹・ツル・笹が茂っている、土留めになっていると思った。地域水源保安林を自分の目で確かめられた。水源かん養林の大切さと共に、真下の道路、民家、地域景観など、整備する上の規約、条件の壁が課題。また確保、現場作業、整備後の検証もしっかりやっていただきたい。</p>	4
E	<p>間伐率 保安林は間伐率の制限があるようだが、これが木材生産に起因するものであれば改善すべきである。</p>	2
F	<p>土壌安定と表層植生をふやす 効果は、まだ見えない。</p>	3
G	<p>均等に間伐するから、均等に暗い。 道路に近い人工林であり、木材を搬出することも可能な立地ではあるが、手入れ不足でありすぐに商品になる見込みもない。ここは道路付もよいが、谷あいの住宅地が近く、材木の生産よりも保安林として、雪害や土砂災害に備えることの優先度が高い。木材を生産するなら、間伐は均質でなければならないが、雪害対策や下草を優先するならば、同じ20%でも場所により密度を変えるなどの工夫で、より効果の上がる方法はないかなど、新たな手法の創出を望む。</p>	2

平成24年度第2回事業モニター評価一覧（地域水源林整備の支援）参考資料

3 総括評価

委員	内容	評価点
A	<p>保安林であることの規制により、効果の上がる整備ができなかった事情はわかるが、それならば事業の実施は規制緩和の認可を得てからでもよかったのではないかと期待できるところから順に、事業を実施していくべきであると考えます。</p>	2
B	<p>モニターした森林を見る限りでは、きれいに施業されているものの、今のままで はたして目標林型に誘導していけるのかという疑問が残ります。 まずは市が目標をしっかり見据えて 必要な施業方針を採用するように して欲しいと思います。相模湖周辺480haの中の市有林整備であるわけですから 市の意向・裁量でできることだと思います。 神奈川の水ガメである相模湖周辺の森林が、しっかり保全されることを期待したいと思います。</p>	2
C	<p>やはり、材積率の縛りがネックである。 説明では、このヒノキ林を15年程で混交林の実現を目指しているとの事であったが、現状では15年後にやっと広葉樹の苗が育つ環境が整う程度に思われた。今後の施行に期待したい。</p>	2
D	<p>地域エリア内の森林整備を市が主体的に行うことは理想的である。所有者にとっても地域住民にはたくさんのメリットであると思う。但し、市が交付する補助金や入札を行う時の適正な価格、公明、透明さを市民（県民）に説明し得る税金の使い方をお願いします。</p>	4
E	<p>間伐はされたが依然として林内は暗い状態であり、残念な印象を受けた。一方で、間伐率に規制があることを知り勉強になった。</p>	3
F	<p>広葉樹林および人工林を混交林・広葉樹林に誘導するために、緊急な事情がない場合は様子を見る方がよい。 林相、林床などについて調査が望まれる。もっと、思い切った試行を期待する。</p>	3
G	<ul style="list-style-type: none"> ・実情に即さない規制の壁 今後を期待する。 ・流通のために最低限必要な商品情報の整備 今回相模原市内の2ヶ所の現地の担当者それぞれに「相模原材で家を建てたい人がいたら対応可能か」と確認したところ、「どこに聞けばどんな木があるかを知ることができるか」という情報についての、はっきりした答えは得られなかった。このように情報が未整備の現状では、地元材で建てたいというお客さんが現れたとしても、失望させてしまう。貴重な販売の機会を捉えるための配慮や仕組みは、未整備である。 野菜や果物など農産物は、生産の段階から厳しい選別や売れる品種選定など、市場に合わせて生産されているが、今の林業には、コスト意識も、在庫や流通の情報も欠けている。国産材が売れないと嘆いているが、その原因は、付加価値の軽視と、顧客のニーズに対応する情報分野での遅れが、流通を妨げていることにもあるのではないかと。 ・製材業者の役割 どういう木がどのくらい調達可能かという現場の在庫状況と、営業の市場動向双方の情報をつなぐことができるのは、製材業者であろう。今後は製材業者が、自らを情報産業として位置づけられないのであれば、県産材・相模原材は未来永劫、「切り捨て」か「並材の市売り」かの、二者択一の世界から抜け出すことはできない。 ・売り先（出口）が決まらないのに切るのは林業だけ。 売り先が決まっていらないのに収穫する農家はいないが、木材は伐る段階で誰に売るかが決まっていらない。お客さんの顔を見ないで切っているから、「商品」が作れないのではないかと。これからは「どう売るかを決めてから切る」ことを考えて切らなければ、山は維持できない時代になる。 ・市場連動性を常に頭において考えているか 相模原市内には、住宅を県産材で、特に相模原材で家を建てる希少なお客さんを大切に作る良心的な住宅メーカーがあるが、資材の情報は集約されず、そのニーズに応えることができていない。今の状態で間伐材は、品質によらず、流通側の出口は「並材の市売り」から脱却できない。 	4

平成24年度第2回事業モニター評価一覧（地域水源林整備の支援）参考資料

4 実施実務のチェック（資料は理解できたか・現地の状況は理解できたか・説明は理解できたか）

委員	内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
D	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
E	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
F	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適)
G	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は理解できたか (適) ・現地の状況は理解できたか (適) ・説明は理解できたか (適) <p>※ 相模原市での事情をご説明いただけたことには、とても感謝している。</p>